

## 国際学会参加情報

兵庫県立姫路循環器病センター 松田 均

(2014/5/27 記載)

### 1. Veith Symposium 2013/11/19-23 New York

---

5分の時間制限のあるrapid-fire presentationが続く（今年は750のプレゼンテーションを予定とのこと）。EVAR/TEVARが中心であったが、下肢動脈疾患はもちろん、静脈、透析のアクセスからTAVIや脳血管疾患まで幅広presentationが聴ける。日本人の口演者は限られているが、聴講者はここ数年かなり増加している。ポスターは査読なしで直前まで応募できる。アワードの審査のためのプレゼンテーションが必要であり、レベルは高い。

### 2. LINC (The Leipzig Interventional Course) 2014/1/28-31 Leipzig

---

厳冬のLeipzig郊外の巨大なコンベンションセンターで開催され、今年の参加者は世界70か国から4734人（日本57人）と報告されている。3つの会場でライブ手術を見ながら関連するプレゼンテーションがあり、1つの会場ではディベートやパネルが行われていた。動脈疾患に限らず、静脈、denervation EVAR/TEVARなどの先進的な分野が中心であった。少ないながらポスターセッションもあり、プレゼンテーションとディスカッションの時間が設けられている。

### 3. CX (Charing-Cross) Symposium 2014/4/5-8 London

---

昨年、会場がImperial Collegeの講堂からコンベンションセンターに移ったが、今年はさらに最も大きなホールに移り、参加者も4181人と報告されている。四肢動脈、頸動脈、腹部大動脈、胸部大動脈、静脈について、トピックスごとに数名の口演とパネルディスカッションが行われ、聴衆への質問と集計がその場でなされる。特に、賛否2名ずつのディベートは見もので、B型解離のTEVARに関するディベートは会場から聴講者があふれていた。